

シンポジウム

湯浅 和恵

スティーブンス・ジョンソン症候群患者会 代表

薬は病気を治すのには必要不可欠です。

しかし、薬には効用に反して副作用が出現します。その副作用によって重篤な状態になったり、後遺症が残ってしまうことがあります。

それがSJS(スティーブンス・ジョンソン症候群)です。

今のところ、発症のメカニズムが解明されていないため、どんな薬でもどんな人でも発症する危険性があるのです。100万人に1～5人の発症率ですが、あらかじめ薬を飲む前に予知することはできません。

わたしたちは、病気を治すために薬を飲みました。

しかし、その病気よりも重篤な病気に罹患してしまいました。その後、薬を受け付けられない人も多く、どうしても薬が必要となったときはどうしたらいいのか悩んでいます。

薬は、必要なときに必要な量を服用するのが、副作用を避けるのに最も重要だと思います。

それが、薬を服用する前に患者個人個人にとって効き具合や副作用などがわかったら、それは素晴らしい事だと思ふと同時に、わたしたちのような辛い経験をする人がなくなるということになります。

また、今後わたしたちSJS患者が安心して薬を服用できるようになります。

オーダーメイド医療の実現を心から期待致します。

講演者プロフィール

1978年 歯科大学卒業。1991年 TEN発症。現在はSJS(スティーブンス・ジョンソン症候群)患者会代表
スティーブンス・ジョンソン症候群患者会 患者相談ダイヤル:090-7209-8981